

サウサンプトン大学 工学・環境学部
 帝京大学 文学部 准教授

わたなべ こうへい
 渡辺 浩平

イギリス人は中古品が好きである。ケンブリッジ在学中にコレッジのフォーマルホールに父からお下がりの古ぼけたスーツを着ていった際、何かのきっかけで「このスーツは私より歳が上らしい」といったら、まわりから素晴らしい!と称賛され、ちょっと戸惑った覚えがある。多くの人が中古品のほうが品質がよく、社会にも環境にもよいという。

全国津々浦々このまちでも、さまざまなチャリティー団体が寄付された中古品を売るお店を構えており(写真1)、イギリスのチャリティーショップの展開普及はヨーロッパでも特異的である。途上国の開発支援や災害対応を行うOXFAM、医療研究や患者の支援を行うBritish Heart FoundationやCancer Research等の団体が全国チェーンを展開している。多くのチャリティー団体にとってチャリティーショップは重要な活動資金源の一つである。チャリティーショップは市民か



写真1 サウサンプトン大学最寄りのポーツウッド商店街。手前からBritish Heart Foundation, (2軒飛ばして) Salvation Army, Scopeのチャリティーショップ。他にもAge UK, Cancer Researchなど、数えてみたら300mのあいだに計10軒あった。チャリティーショップ巡りをするだけでも、けっこう楽しい。著者撮影

ら無料で不用品の提供を受け、販売する。古着・古本が主力だが、スポーツ用品、食器・調理器具、電化製品、家具、骨董品など幅広い品物が扱われている。店員スタッフのほとんどは無償のボランティアで成り立っており、全英で22万人が定期的にチャリティーショップのボランティア店員に従事している¹⁾。もともとチャリティーとはキリスト教の慈善と奉仕の精神を源としており、金銭的にあまり余裕のない人でも物品やボランティア労働を提供できるというところから、社会的に根付いているのかもしれない。

チャリティーショップ以外でも市民による不用品交換でいうと、現在滞在しているサウサンプトンでは毎週末、駐車場や学校の校庭を使って「カーブート(乗用車の荷物室の意)セール」と呼ばれるフリーマーケットが数か所で開催され(写真2)、これが原因で周辺道路が渋滞するほどの盛況ぶりをみせている。

さて、チャリティーショップの中古品の出どころの一つとしてハウスクリアランスがある。遺品整理でなくても、転居や家の売却にともなって、必要なものを除いた家の中身を丸ごと寄付する、といった感じである。過去にはチャリティー団体に属するボランティアが、中古品、リサイクル対象物、廃棄処分に分ける仕分けや片づけの手伝いをして、売り上げがチャリティー団体の収入になる、というパターンだったようだが、現在はボランティア



写真2 サウサンプトン郊外でのカーブートセールの様子。著者撮影

ではなく研修を受けたプロの作業員が仕分け・片づけ作業を行うようになっていく²⁾。そのため、片づけ代を徴収したうえでハウスクリアランスを行うパターンが大多数である。

チャリティー団体でなくてもお金をとってハウスクリアランスを行う業者も多くある。ある業者のページ³⁾にあるように、イギリスでも片づけ処分のオプションとしては、1) 自分の車あるいはレンタルした車両に不要物を詰め込んで、自治体の施設に持ち込む。2) 自治体の粗大ごみ回収に申し込む(量の制限、予約から回収までに時間がかかる、建物の外へ持ち出しは手伝ってくれない、というのはイギリスも日本も同じ)。3) 廃棄物業者に依頼(これも仕分けや持ち出しは依頼者が行う必要あり)。4) ハウスクリアランスをチャリティーや業者に依頼する、といったところらしい。

参考文献 (閲覧日すべて2018年5月26日)

- 1) Peter Harrison-Evans (2016) Shopping for good: the social benefits of charity retail <<https://www.demos.co.uk/wp-content/uploads/2017/09/Shopping-for-Good-the-social-benefits-of-charity-retail.pdf>>
- 2) St Oswalds Hospice <<https://www.stoswaldsuk.org/shop/house-clearances/about-house-clearances.aspx>>, British Heart Foundation <<https://www.bhf.org.uk/shop/donating-goods/house-clearance>>
- 3) <https://www.anyjunk.co.uk/blog/how-to-do-the-perfect-house-clearance/>
- 4) <http://www.ukhouseclearanceassociation.org/>
- 5) <http://www.nachouseclearance.co.uk/>
- 6) <http://www.nationwidehouseclearance.co.uk/house-clearance-charity-donations/>
- 7) <https://www.ukhouseclearance.com/abacus-charity.htm>
- 8) <https://www.averyassociates.co.uk/compulsive-hoarding.php>

英国ハウスクリアランス業者の協会(Association of UK House Clearance Companies)のウェブサイト⁴⁾では、ハウスクリアランス業者の多くが、多額の追加料金をとる、高価な物品を無断で回収売却する、制度に反した処理先への搬入や不法投棄等を行う悪徳業者であるとしており、注意を呼びかけている。個々の業者のウェブサイト⁵⁾でも、廃棄物運搬業の免許をもった業者を選ぶことの重要性を説いていたりする。

業者に依頼するにしても、依頼者にとって整理される物品が有効利用されることは重要な関心事であるらしく、多くの業者がリユース率・リサイクル率やチャリティーへの物品寄付率の実績等を提示して誇っている⁶⁾。チャリティーショップへ家具等を提供するために倉庫をもっている業者もあった⁷⁾。ホーディング(ごみ屋敷)片づけの事例などを紹介している例も多数ある⁸⁾。

このように、遺品整理業と廃棄物制度の兼ね合いやごみ屋敷の問題など、イギリスと日本では多くの共通点が見られるが、整理で発生するまだ使える不用品の行先は日本より少々充実しているといえそうだ。最近日本で流行りつつあるフリマアプリはイギリスのチャリティーショップの役割を果たすことができるようになるだろうか?